



育休日誌

母になるということ

八月初旬、元気な男の子を出産し、母になりました。

といつても、母と子の関係づくりが始まった、というのが実感です。



べくしてわが身に起きていること、とても私的な出来事から、人はどうやって母親になつていくのか、四回にわたりつづってみたいと思います。

○日目：その時は突然に

まさかこのタイミングで陣痛が始まるとは思つていなかつた時に……。それでも今思えば、出産前に必須だつた原稿を送り、実家から母の登場を待ち、万事準備が（一応）整つた段階で降りてきてくれたのは大したもの。Yの泣き声が聞こえた時には安心して一気にられ、私は教員の道に。そして、今、母になる

「はじめから母親がいるのではなく、赤ちゃんが母親にしてくれる。教師も同じ。子どもが教師にしてくれるから大丈夫」。立場は関係性によつて成り立つというこの言葉に支えられた道に。そして、今、母になる

郡司明子

（大学教員）

郡司明子（ぐんじあきこ）
群馬大学准教授。専門・美術科教育。小学校教諭を経て現職。身体性を重視したアート教育を実践研究中。

からだがほぐれた。

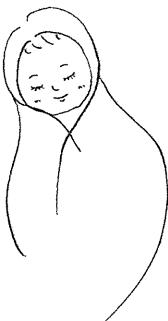
その後、夫に見守ら

れる中、胸の上にY

を抱いて初乳を飲ま

せた時の満ち足りた

喜びは一生忘れない。



命の重みと温かさを肌で感じた時。

6日目：痛みは続く

退院後もしばらくは、すべてが痛みに支配されていた。私は、出産後ひたすら養生しようと決めていた。しばしネット環境はおさらば。テレビもつけない暮らしに、Yと共に神聖な別世界の住人になつたよう。

15日目：国宝級の作品

(Yにとつての)祖母の抱っこはやはり違う。

Yは安心してくーっと眠りに入る。この時期

母乳の仕組み。私は時折、母乳トラブルに見舞われる。張るし、

の私は抱き方がおぼつかず、そとはいかない。

祖母がYを布団に寝かしつける時は、国宝級

の作品を扱うかのように、ゆっくりと丁寧に

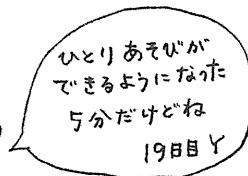
慎重に。恐れ入る。

20日目：Yのまね

Yのことを内側から理解しようと一挙手一投足、頭からつま先までまねしてみようと努めてみた。手足バタバタ、首を左右に、口をもぐもぐ、動かない個所はないほどにフル稼働。赤ちゃんは全身全力で生きている。

21日目：寝て過ごしながら……

考えていたのがケア論のこと。



詰まるし。産院でもマッサージケアをしても
らつた。助産師さんいわく「それでも赤ちゃん
に飲んでもらう以上の効果はないんです」
とのこと。私はYにおっぱいをあげていても
もりが、実はYに飲んで（マッサージして）
もらっていたのか！人間にはケアの要素が
根本的に仕組まれているのだなあ。

23日目・親子のつながり

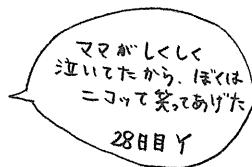
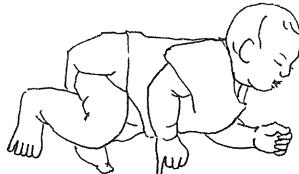
Yのからだは私の母乳でつくられる。私の
母乳は祖母がこしらえる食事からつくられ
る。親子三代でつながる食の連鎖。おばあち
ゃんの知恵、料理、歌、抱き方、なだめ方、
あやし方、そういうのが代々伝わってきたの
だとしみじみ思う。そう、祖母がYに歌つて
聞かせていた「からす」の歌、出産を経て、
初めて私はわが家を横切るカラスの存在に心
から共感した。カラスも“かわいい子”があ
るのよね。

ホイップクリームのような
白いちつちやい手。日に日に
0・5ミリずつ伸びていくま
つ毛。Yのふとした変化に気
付くことがうれしい。

30日目・創造の根源

（インスピレーション）は赤ちゃんから？

Yを見ていると、お地蔵様に
見えたり、阿修羅像に見えたり、
はたまた雲中供養菩薩（平等院
鳳凰堂）に見えたりしてくる。
ある日の寝姿は、キース・ヘリ
ングの描く「ベイビー」。人が
織り成す創造活動と赤ちゃんの
存在＝生命力は無縁ではないは
ず。



38日目：音楽教育は何のため？

Yを抱っこすると、自然に幼いころから親しんでいる歌が口をついてくる。「うみ」「チユーリップ」「ぞうさん」等々。音楽家の井上武士氏は、こんなふうに言っている。「私は音楽を学んだ」と喜ぶよりは、音楽に感動する心を持つたことをうれしく思います。今の私はわが子に歌を歌つてあげたくなる心を持たせてもらつたことに感謝したい。

59日目：母子像



「世の中で最も美しいといわれる形は母親が赤子を抱く姿」と聞いたことがある。そして私は最近、人間の手首が曲がるのは赤ちゃん

を抱くためなんだ、と思える瞬間があった。古今東西の母子像を調べたくなつた。

82日目：こぶしの研究

こぶしを発見してからというもの、研究にいそしむY。こぶしをじっと見つめる、口に持っていく、その感触を丹念に味わい尽くす。時には的が外れて、こぶしが鼻やほっぺたに。すると自身の研究行為に憤慨。赤ちゃんは立派な研究者だと思う。

—続く—

